

4 レーダーチャートの特徴

【形状】縦軸の原点を中心の一箇所に束ね、放射線状に伸ばした形状（蜘蛛の巣状）

【利点】

閉じた折れ線の内部の面積

総合的な得点力を比較できる

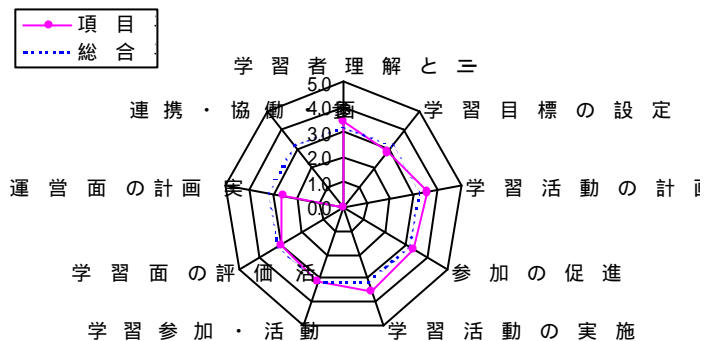
折れ線の突出(陥入)の形状

項目間のバランスが視覚的にわかり、
特徴がつかみやすい

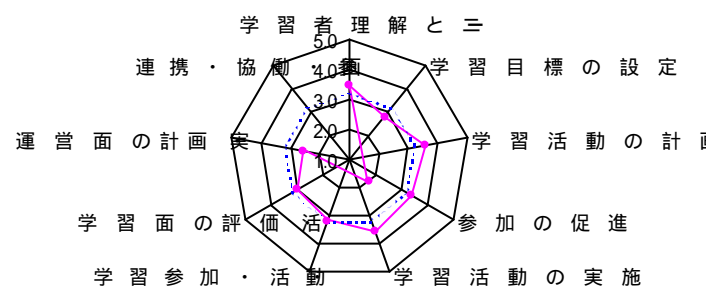
- ・複数分野の指標がある場合、項目間のバランスを表現するのに最適である。

【注意点】

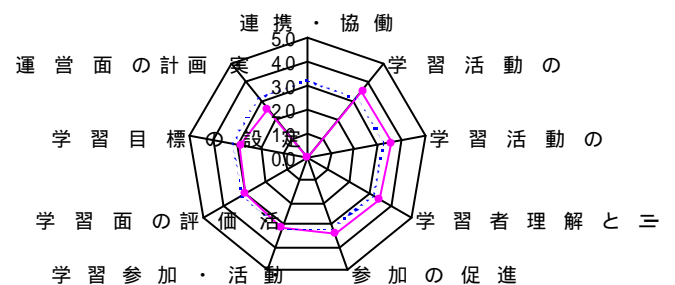
- ・目盛の取り方によって、印象が変わる。特に中心点において、図1のグラフは（原点）が0であるが、1にした場合、図2のようになる。特に、記述がなく空欄であった「連携・協働・参画」に関しては、かなり歪な形となる。
- ・項目の並べ方で、印象が変わる。項目を得点の高かったものから順に並べていくと図3のようになる。図1と比べると形が異なり、印象が違って見える。項目間の得点の高さが比較しやすい。



【図 - 1】



【図 - 2】



【図 - 3】

レーダーチャートで読み取る ~ 評価ブックの場合 ~

平均との比較で、傾向を読む 自分の平均点との比較により、相対的に自分の分野別の力の入り具合が把握できる。あくまで出した項目の平均点なので、平均点より高ければよいとか、悪いというものではないことに注意。

低かった項目については、次回のプログラム実行時の留意項目と心得る。

他の事例との比較で、傾向を読む 自分が行った別のプログラムや、同じプログラムの時期を違えた結果を比較することも参考になる。どの分野もバランスよく得点が高くなっていくことが望ましい。記入者によって得点のつけ方や平均点の傾向が違うので、単純に値だけを他の人と比較することはナンセンスであると心得る。